

広報ただみ診療所

朝日診療所 所長 佐竹 秀一

「クスリ」のおはなし

皆さんの身のまわりにはたくさん種類の薬があり、それぞれ病気を治したり、健康を維持したりするのに役立っています。一方、反対から読むと「リスク（危険）」との言葉どおり、適切に使用しないと思わぬしっぺ返しを食うこととなります。今回は僕が診療所で経験した薬の失敗談を交えて話をします。

【例1】先日外来に来たAさん、「眠れないから薬をくれ。友達にもらった安定剤飲んでらよく眠れたから」と、友人にもらった薬を僕に見せました。よくみてみると：なんと、下剤だったのです。どちらも寝る前に飲む薬なので、友人は間違って渡してしまっただけでしょう。それでも眠れてしまったAさんってすごいっ！下剤だったから良かったものの、薬によっては命に関わる物もあります。決して貸し借りは行わないようにしましょう（責任、取れま

せんよね）。

【例2】高血圧の患者Bさん、血圧の薬を出しているのですがなかなか血圧が下がらず、僕なりにあれやこれやと頭を悩ませ、外来にてどんどん降圧薬が増えていきました。ある時福祉の職員から「先生、Bさん全然薬を飲んでいませんよ」と指摘されびっくり！下がるわけ無いよなあ……。処方された薬はきちんと用法・用量に従って飲んでください。また、どうしても飲み忘れた際には正直に医師（看護師・薬局でもいいです）へ教えてください。それも貴重な情報になります。

いいことだらけなら僕たちもどどん薬を出したいですが、薬には必ず副作用が存在します。肝臓・腎臓の機能障害をきたしたり、体の電解質を狂わせたりします。時に僕たち医師は、その副作用を逆手にとって逆に治療に用いる

こともありますが、日常的ではありません。皆さんも薬を服用する際には必ず副作用について確認し、当てはまる症状が出たときはすぐに相談してください。

現在国内で薬の利かない耐性菌があちこちで検出された、と話題になっていますが、これも実は薬（抗生剤）の乱用が原因で起こったともいわれています。必要量・期間以上に抗生剤を使用することで、それが効かない耐性菌が突然変異で生まれてしまうのです。

薬とは「①必要なときに②必要な薬を③必要期間用いる」ことが大事なのです。薬の知識をみんなで共有し、うまく恩恵にあずかれるようにしましょう。

市町村対抗野球大会！ 只見町チーム初戦惜敗

第4回市町村対抗福島県軟式野球大会が、福島市あづま球場で行われ、「初戦突破」を目指し挑んだ、只見町チームが初戦で惜敗しました。過去3回の大会も初戦で敗退。今年こそは、初戦突破を！とチーム一丸となって勝利を願いました。優勝候補と前評判の高い二本松市を相手に息詰まる投手戦の結果、0対1で惜しくも敗れてしまいました。



当初予定されていた9月26日の初戦が雨天のため延期になり、10月2日に初戦を迎えました。

7月から練習を重ねてきた只見町チーム。残念ながら結果として初戦敗退となってしまいましたが、試合終了後は来年に目を向け、またチーム一丸となって勝利を目指すことを誓い合いました。

来年もさらなる只見町チームの活躍に期待したいと思います。

◀二本松市に惜しくも敗れた只見町チームの攻撃